

令和6年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日

令和6年8月20日

法人名

園名

社会福祉法人照治福祉会

摂津峡認定こども園

まとめ

全体平均

4.35

<p>第2章第2節 乳児期の園児の保育</p>	<p>乳児期の子どもたちが日々の生活の中で安心して過ごせるように、担当保育教諭との愛着(信頼)関係を深めながら子どもの今に寄り添い保育をすすめている。またそのような中で、基本的な生活習慣が身につくような援助を個々の成長に合わせて行い、日課に沿って生活することの大切さも感じている。また、あそびが広がるような環境を作ることにも積極的に取り組み、職員間で常に対話をしながら、どのような環境が今必要なのかを考え、整備できるようにしていきたい</p>
<p>第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育</p>	<p>「自分でやりたい」という思いの表出ができるように、丁寧に個々の育ちに沿って援助している。また「自分で!」という思いを見守り待つことができるように保育教諭が気持ちにゆとりをもって子どもたちと接することの大切さも感じる。園の周りにある恵まれた自然環境の中で、身近な動植物に触れ季節を感じながら遊んでいる子どもたちの表現活動がより豊かに広がっていくように保育教諭も楽しさを共有し言葉でその気持ちを表現したりして子どもたちの感性の育ちを保障していけるようにしている。</p>
<p>第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育</p>	<p>ひとり一人の気持ちを受け止め、安心して生活ができるように関わっている。自分の思いを人に伝えることができるように子ども同士の関わりを見守ったり、うまく伝わらないときにはどうするかなど仲立ちになるようにしている。年齢によって理解度に差があるのを十分理解した上で、いかに子どもたちに集団で過ごす中での決まりや約束事を伝えていくのかを保育教諭間で工夫し、子どもたちにわかりやすくイラストや簡潔な言葉で説明するなど意識的に行うようにしていく必要がある。共同の遊具や道具などの扱いについても伝えているが、まだ雑に扱うところが多いため、日常を振り返り子どもたちへの伝え方や促し方を職員間で共有していくようにする。</p>
<p>第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項</p>	<p>保育教諭や看護師、栄養士などそれぞれの専門性を生かした保育を行っている。また、乳児では育児担当制の特性を生かし、幼児では異年齢での関わりを行いながら、ひとり一人の思いに寄り添い丁寧な保育を心がけている。そして、保護者とは登降園時に家庭と園の様子を互いに伝え合い子どもたちの様子を両方で共有し信頼関係を築き共に子育てをするという協力体制を作るように努めている。職員間で子どもたちの状況をこまめに共有することが必須になってきており、クラスの壁を越え園内でできる限り情報を共有したいと思っている。国籍やジェンダーについての研修等を行い意識を最新のものにしていく必要がある。</p>
<p>第3章 健康及び安全</p>	<p>健康管理や安全管理においては看護師や管理職のみならず、職員も衛生管理、安全チェック等で保育の環境を見直し、月に1度はチェックするなど管理の役割を担うことで一定の意識を保ちながら職務に就くことができている。アレルギー児に対する対応に関しても、誤食等がないように対応の方法をマニュアル化し、さらには見直しを行うことで何重にも防げる手立てを行っている。非常時の避難等の対応についても子どもたちにも身の守り方や避難の仕方を一緒に考えるようにすることで、緊急時には保育教諭の話を聞き迅速に行動できるのではないかと考えている。</p>
<p>第4章 子育ての支援</p>	<p>保護者とのコミュニケーションを密にすることで困りごとなどを気軽に相談しやすい関係を作るようにしている。園の保育を理解してもらう事を目的とする保育参加を通して、家庭と園と一緒に子育てをしていく上では保護者にも園の思いを理解してもらいやすく保護者からの育児相談のきっかけにもなっている。地域の子育て支援については地域の福祉委員の方々と一緒に行っている出前広場の参加者が少なく広報の仕方など工夫していく必要がある。</p>
<p>第5章 職員の資質向上</p>	<p>職員の資質向上については各自に合わせて研修内容を吟味したり、興味のあるものを積極的に学びたいという思いを尊重している。法人内での研修は充実しており、職務や経験などでポイントを絞った研修も行っている。外部の研修やキャリアアップ研修なども積極的に参加を募っていることでそれぞれが学びの機会を得ている。学びに対する熱量が職員ごとに違い、保育のスキル向上や学びに対する意識向上については、対話をもって確認していきたい。</p>
<p>総合</p>	<p>こどもの“今”に寄り添い育児担当制保育、異年齢混合保育をすすめている。職員一人ひとりは、この教育・保育の意味をしっかりと理解し日々子どもたちと向き合いクラスの運営に尽力してくれています。新年度が始まってから今日に至るまでに子どもも大人も新しい環境に慣れ、少しずつ気持ちにゆとりが持てるようになり始めたところです。後期に向けて子どもたちのあそびがより広がり深まっていけるように保育教諭は環境をしっかりと整えていきます。そのためにも職員間の意識の共有や学びへの向上心を高めて行けるように園内研修や会議等で確認していくことが課題となります。そしてもう一つ大切にしていることは、保護者との信頼関係です。保育参加を初め日々の登降園での対話を大切にコミュニケーションを取っていききたいと思えます。</p>

データ表

内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	4.41
「3歳未満児保育」	32	4.33
「3歳以上児保育」	53	4.28
「教育保育の配慮事項」	16	4.40
「健康・安全」	29	4.45
「子育ての支援」	18	4.37
「職員の資質向上」	9	4.30
計	172	4.35

データグラフ

